

◎議長（鈴木敏正 議員）

以上で、伊藤議員の質問を打ち切ります。

次に、3番 塩原未知子議員の発言を許します。塩原議員。

〔3番 塩原未知子 議員 登壇〕

◎3番（塩原未知子 議員）

おはようございます。今日で大震災から3年半が経ちます。しかしまだ24万人の方が普通の生活を取り戻せず、避難生活をしていると聞いております。また、さまざまな自然災害により各地で避難されている方も多い状況です。一日も早い復興をお祈りいたします。幸いにも大きな被害がなかった尾花沢市です。花笠まつりが終わって、すっかり秋めいてまいりました。9月の定例会議場で雪冷房の涼しさが体感できると楽しみにしておりましたが、今日はあいにくの曇り空。窓からの天然の風が涼しく、せっかく楽しみにしていた雪冷房が必要なくなりちょっと残念ではありますが、先の通告に従い3つの質問をいたします。

まずはじめに、頻繁に発生する地震と自然災害に対応して防災拠点を早急に消防署におくべきではないでしょうか。先月に発表された尾花沢市庁舎建設基本計画案によれば、新庁舎に必要な機能として第一に防災拠点として機能できる安全な庁舎をテーマに掲げておりますが、集中豪雨や巨大地震など大規模災害はいつ発生しても不思議ではない昨今です。新庁舎が建設予定の日まで、庁舎内の職員、避難して集まった市民を守り、有事の際に冷静に本部の司令塔機能を各地区に伝えるためには、耐震基準が明らかになった地震災害に安全が補償されない現庁舎を第一の防災拠点として司令塔を置くことはならないと考えております。そのため現在でも司令塔である本部基地は急ぎ安全な場所に決め直すことが肝要と考えます。9月7日の県防災訓練では、サルナートが本部になっておりましたが、すでに震度7も充分に対応できる耐震用備えJアラートが設置された消防署を拠点、司令塔として位置づけるべきではないかと考えているんですがいかがでしょうか。

また、大規模災害により現庁舎が被災した場合、どのような対応をとるのかお聞きかせ下さい。検討委員会の案には、将来の人口減少を見据え身の丈にあったコンパクトな庁舎とありましたが、身の丈はどのような大きさを見積もっておられますか。予算の26億円から30億円の発表に関しましては、東京オリンピック開催までさらに想定を超えた材料費の高騰、さらには人手不足が予想されております。再生可能エネルギーを

活用したあらたな庁舎の仕掛けを用意する新庁舎の建設は、容易に約30億円以上の建設費が予想され、補助金を当てにして足下を見ない未来の財政負担は市民を不安がらせております。改めて消防署を防災拠点の基地として位置づけることにより、新庁舎における防災拠点機能に係る予算を削減することが可能になるのではないのでしょうか。そして何よりも、各地区の防災拠点、指定避難所、一般避難所の中には、かなり老朽化が進んでいる施設が多く見受けられます。老朽化している建物についての改修計画についてはどうお考えですか。特に各地の指定避難所に指定されている地区公民館については、早急に改修が必要であると考えますがいかがでしょうか。

次の質問です。今年も8月27、28日、祇園の流れをくみ江戸時代から受け継がれる伝統の尾花沢祭り、行列パレードと発祥地の豪快な笠回し踊りが自慢の花笠まつりは、過去最高の3,000人の踊り手が参加し降りしきる雨をも吹き飛ばして、大パレードを盛り上げてくれました。私も踊り手の一人として、初めてパレードの最終第5集団で踊ることができました。

祭りに関しまして、毎回繰り返し繰り返しお尋ねをしているところでありますが、おばなざわ花笠まつり実行委員会の運営の見直しについて再び進捗状況を含めお聞きしたいと思います。また、先の6月定例会一般質問の際に、四大まつり実行委員会の企画・準備・運営を市民が主体となって行うことについてお尋ねし、関係課からはまつり実行委員会や関係団体との話し合いを行うとの回答がありました。その後、どのような検討がなされたのかお聞かせください。そして、おばなざわ花笠まつりの開催2週間前になって、ようやくプログラムが全戸配布されました。今年は例年以上に広報が遅れたように思います。パレード部会のお話し合いもパンフレットができる頃と遅い招集だったように感じます。祭り実行委員会を早期に開催し早めの広報を計画することが肝要と思いますが、どうして年々遅くなっているのでしょうか。例年以上にホームページの掲載も遅れ、8月になっても内容が更新されず、各種メディアへの周知が大変遅れたと感じております。改善策の検討はなされたのかお尋ねいたします。

最後にホームページの情報管理体制についてお尋ねいたします。今年4月、市の公式ホームページがリニューアルされました。新しいホームページのトップページは、市民と観光でアクセスされた方の入口が分かれており、大変シンプルで良いデザインになっていると思います。しかし、依然として各課からの更新に温

度差があり、古い記事が混在していたり、大事なお知らせが埋もれていたりしました。大変残念です。また、誤字、脱字や新旧のページの内容のチェックなど管理体制は改善されましたか。コンテンツの更新作業に十分な職員研修はなされたのかお尋ねいたします。また、市のホームページから発信される情報については、その拡散性から、相手、見る側の立場に立った表現などに細心の注意を払わなくてはならないと思います。庁舎内では、ホームページ更新のスキルアップ、モラルアップのICT教育について、どのようなお考えがあるのかお聞かせ願いたいと思います。

以上、私の壇上からの質問はこれで終わりますが、必要に応じて議席からの再質問をお許しください。

◎議長（鈴木敏正 議員）

市長。

〔市長 加藤國洋 君 登壇〕

◎市長（加藤 國 洋 君）

ただ今、塩原議員より大きく3項目についてのお尋ねを頂戴しましたので、順次お答えを申し上げたいと思います。

まず第1点目、防災拠点を消防署に置くべきではないのかというお尋ねにお答え申し上げたいと思います。

本市の地域防災計画では、豪雨や大規模な地震などで市内に災害が発生した場合、又は恐れがある場合は、市は速やかに災害対策本部を設置し、本部を拠点に災害応急対策全般の指揮、情報収集、伝達等を行い、早期の復旧、復興や災害の拡大防止にあたることとなっております。

また、災害対策本部の設置場所につきましては、その構成員である各所属長が迅速かつ緊密な連携が図られるよう市役所庁舎内に設置することとなっております。

新庁舎が完成するまでの間、緊急的に消防署を防災対策拠点として位置付けしてはとのお尋ねでございますが、消火や救急、救助活動等を担う消防署と災害対策本部の指揮命令系統が錯綜し混乱を招く恐れがございます。また、各所属長が消防署へ移動するとなれば、各所属職員への指揮命令が迅速に行えるかなどの課題もございます。

以上のことから、新庁舎が完成するまでの間につきましては、現庁舎を防災対策拠点として位置付け、万全の対応が図れるよう努めてまいります。

また地震等の大規模災害により、現庁舎が被災した際の対応についてであります。市の地域内に震度6弱以上の大規模な地震が発生した場合は、地域防災計

画に基づき、災害対策本部が設置されます。

本部の設置場所は、原則的には市役所庁舎内としておりますが、万が一、市役所庁舎が被災により本部が設置できない場合は、文化体育施設「サルナート」、学習情報センター「悠美館」の順に代替の設置場所にすることとしてございます。

今後は、防災訓練や図上訓練等の各種訓練を通して、現庁舎が被災した場合を想定してシミュレーションをするなど、本部体制の設置手順を確認し、大規模災害に備えてまいりたいと考えております。

次に国や県、電力や電話会社、消防さらには各地区の自主防災会の皆様など多くの方が協議し策定された地域防災計画においては、市庁舎は防災活動の拠点として位置付けられております。よって、庁舎につきましては、防災センター機能の強化が第一と考えております。また、昨年度実施しました住民アンケート調査でも、新庁舎の重要な機能について、防災拠点とする回答が約4割で、庁舎に求める複合機能についても、避難所機能とする回答が約4割と最も多い回答結果となり、市民の皆様も庁舎の防災機能の強化を強く望んでおられます。

その上で、庁舎機能と防災センター機能の共用化により、身の丈に合った庁舎のコンパクト化に努めてまいりたいと考えております。たとえば、庁議室と防災対策本部室を兼ねることや、会議室や相談室については自主防災組織等の防災研修や講習会、災害時の一時避難スペースとして活用できるよう効率的に配置し、公用としてだけでなく市民に開かれた公共的な機能も付加してまいりたいと考えてございます。

また、財政面におきましては、防災センターなど防災・減災に資する整備事業につきましては、交付税措置のある緊急・減災防災事業債の活用が可能となりますので、庁舎機能と防災センター機能の共用化を図ったほうが財政負担の軽減が図られるものと考えてございます。

また現在、各地区公民館につきましては、尾花沢地区以外の福原・宮沢・玉野・常盤地区の各地区公民館が指定避難所として指定されている状況でございます。

一昨年に各地区の自主防災会議を開催し、その場で指定避難所の地区割りを行っており、その中で、地区公民館を指定避難所としての指定しているところであります。

議員仰せのとおり、地区公民館は防災の拠点となる施設であり、耐震補強が必要な公民館については、平成25年度に耐震改修工事を完了しており、安全な施設

となっております。

しかし、学校統合により廃校になった施設や、その他の施設で耐震改修が行われていない施設がございます。今後は、「空き公共施設の利活用及び管理に関する検討委員会」の検討結果を踏まえ、指定避難所の見直しについて検討してまいります。

また、市公民館規則別表に定められている分館、いわゆる集落公民館でございますが、分館は66ヶ所ございまして、その全てが一般避難所となっております。一般避難所は一時的な避難場所であり、住民が最初に避難参集するところでもあります。ご指摘のとおり、老朽化が進んでいる分館も数多くございます。このような状況の中で、一般避難所としての役割を果たし得るものなのか、再検討し調整する必要があると考えております。

平成25年度に、分館66ヶ所のうち昭和56年5月31日以前、これは建築基準法改正前に建築された分館が31館に対して耐震診断の実施希望調査を行ったところ、6館から希望があり、市分館等これは集落公民館ですが、整備費補助金交付規則により補助金を交付し、耐震診断を行ったところでもあります。残り25ヶ所のうち1館は平成27年度以降に希望しており、24ヶ所は希望しないという結果でございました。

耐震診断の結果、必要に応じて、耐震化工事を行わなければならないなど、地域としての財政的な負担もございますので、地域のみなさまの声を聞きながら対応を検討してまいりたいと考えてございます。

次に大きな2つ目の項目でございますが、おばなざわ祭り実行委員会の見直しについてのお尋ねでございます。先日開催されました「おばなざわ花笠まつり」、特に28日の花笠おどりパレードにつきましては、雨天の中での開会となりましたが、議員の皆様をはじめ、多くの関係者と市民の皆様のご協力をいただき、ご観覧の皆様のご温かいご声援の中、69団体、約3,000名の踊り手の皆様が発祥地の花笠踊りを披露できましたこと、この場をお借りして改めまして感謝申し上げたいと思います。

「おばなざわ花笠まつり」実行委員会についてであります。議員ご案内のとおり、現在、まつり行列部会、パレード部会の二つに分かれております。

まつり行列部会では、行列の巡回コースのほか、地域の戸数が減少する中でのまつりへの取り組み、市内全域の小中学生の参加についてなどの課題が出されております。一方で、交通規制につきましては、さらに厳守を求められております。

また、パレード部会では、今年度新たにご参加いただきました「あぶくま信用金庫」の400名を超える方々の観覧場所の確保や誘導、踊り手約3,000名の誘導、進行などについて話し合われてきたところでございます。

実行委員会は、市内の多くの団体の方々から構成されておりますが、議員お尋ねのさらに多くの市民の方から企画、準備、運営に入っていただくことは非常に重要なことと思っております。今年度のボランティア募集などについて関係機関と話し合いましたが、まつり準備に追われ、実施できなかった状況でございます。

またプログラムの配布につきましては、例年同様、市報8月15日号への折り込みを行ったところですが、議員仰せのとおり、広報周知活動に不可欠なポスターやチラシの製作、掲示の時期につきましては、まだまだ改善しなければならないと考えております。

今年度の実行委員会の中では、このたびのまつりの総括と今後の課題を話し合う場を設けるよう、ご意見を多くいただき、早期に報告会を開催し、課題を整理しながら次年度の実行委員会につながるよう努めてまいりたいと思っております。

次に3点目のお尋ねでございますが、ホームページの情報管理体制についてのお尋ねでございます。ホームページのリニューアル前は、総務課情報統計係において全ての更新稟議を行っておりました。総務課担当者がいないと更新ができないことから、スピーディな情報発信を行うために、各部署において夜間や、土曜日曜の更新を行えるよう対応ができないかと、以前、議員よりご質問も賜ったところでありました。このたび、リニューアルに伴いホームページ作成システムのバージョンアップを機に、スピーディに情報発信ができますよう、各部署の稟議によりホームページ更新が可能となる体制をとりました。また公式フェイスブックを開設したことにより、ソーシャルネットワークサービスを利用したスピーディな情報提供を行う環境が整ったところであります。現在は各部署内において内容確認を行い、情報更新を行っているところであります。

リニューアルに係る職員研修につきましては、システム操作研修を、今年3月に開催したところであります。また、昨年10月に全職員を対象に情報セキュリティ研修を行ったところであります。

次に情報の拡散につきましては、塩原議員仰せの通り、インターネット上における情報は、世界中に情報発信を行うこととなり、さまざまな立場の人々が本市のホームページを閲覧する可能性があることから、情

報内容につきましては、特に注意を払い提供していかなければならないと思っております。今回のリニューアルにおいて、公式フェイスブックを開設したことから、現在ソーシャルネットワークサービスに係る職員研修の開催を検討しているところであります。研修内容にネットモラル等も含めるよう考えており、情報発信に係るさらなるモラル向上に努めてまいります。

また、情報関連アプリケーションの盛衰はめまぐるしいものがありますので、定期的に職員研修会を行い、適正利用を図り、トラブルや事故の未然防止に努めてまいります。

以上、私から答弁させていただきましたが、足りない点は担当課長より答弁いたさせます。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

もう少し2、3お聞きしたいことがありましたので、よろしくお聞きしたいと思います。

冒頭に伊藤議員のほうからの質問、自主防災も含め、消防団も含め説明ございましたので、そちらのほうはそうように。先ほど市長からの答弁の中で、拠点のほうは、消防署の機能と混在することが予想されるということで、消防署ではなく現在の市庁舎になっておるということを理解しておりますが、一番心配されるのはこの庁舎の電源が落ちた時に、落ちた状態の中でどのようにここから情報をさまざまなところに発信できるのかということが一番心配されます。あともう一つは、先ほどもホームページのこともお聞きしたところですが、いろんな情報がネットを通じて取り寄せられる状態が全世界に今なっているところなんですけれども、尾花沢市民に対してもやはり世界に発信するという状態は同じなんです、市民にも瞬時に今必要な情報を届けるためにもインターネットの環境を頼らなければいけない昨今だと思います。先に防災無線のほうが今年度は準備されないという、検討の段階であって今年度整うわけではないということで平成27年ということをお聞きしたので余計に感じているところなんですけれども、そのあたりどのように準備なさっているのでしょうか。明日にでももしかしたら地震があつて3.11の時のように庁舎が電源も不通になってしまうことがあると思います。そのような状態で、どのような形をとって今いるのかお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（鈴木敏正 議員）

総務課長。

◎総務課長（笹原隆一 君）

今、災害によって電源が不通になったということでございますけれども、今市庁舎のほうに発電機が1台ございます。それについても全庁舎を全部電気をつけてできるというふうな容量ではありませんので、最低限の電源確保というような形になるかと思っておりますけれども、議員仰せのとおり市のほうの情報収集して情報を発信するということは大変重要なことであります。そんな面からも、今後についてはどの辺までインターネットで電源を確保できるのかどうかということも含めまして検討してまいりたいと思います。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

発電機1台と聞いて、下にある発電機1台なんだなと今認識したところなんですけれども、庁舎に集まるということですね、情報が。さらに庁舎から伝令を各地に届けるということで、半日くらいは最低でも電源が全く落ちてでも機能するようなことをしていないと対策を練る時間もないんじゃないかと私は思っているところです。最近IT機器大変進歩しました。半日以上、1日以上、下手をするとバッテリーさえ繋げば、手ごろなバッテリーさえ外付けにしまえば3日も4日も持つというものができております。いろんなメディアができて、これからくると思っておりますけれどもそのようなものも含めて、今回防災無線の先ほど伊藤議員の質問に対しての答弁の中で担当課の答弁の中では、防災無線の調査をしていると。12月中までということをお聞きしましたのでその辺りどうなのでしょう。何か有事があつたときに、電源確保を含めて機動性が持てるようなものもなさっているのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（鈴木敏正 議員）

総務課長。

◎総務課長（笹原隆一 君）

今、防災行政無線というふうなことでありますけれども、先ほど今市内全域を調査し、12月上旬まで実施設計を終える予定でございます。防災行政無線につきましては、電源が落ちた場合当然考えられるわけでございますけれども、その場合使用できないということになれば、相当高額な事業費もかかるということですので各支柱ごとにバッテリーを掲載し、直ぐに電源が落ちても大丈夫なような形で対応したいというふうなことで今考えてございます。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子議員）

分かりました。そのように検討していただき、いろいろな新しい進歩、どんどん出ておりますので再生可能エネルギーも含め、その場で電源が落ちた状態でも水力、太陽光、風力さまざまな自然エネルギーで発電するという能力もいろんな所でリーズナブルに出てきている時代でもありますので、そのような検討もぜひしていただきたいなと思います。バッテリーと再生可能エネルギーで簡単に1日2日の電源を確保できるならば、どの地区においても安心だと思います。大きな発電機はどうしてもガソリン、もしくは灯油さまざまな燃料を必要とします。それが切れた時、どうするかという問題もございますので、そのような考えも持って調査していただきたいと思っております。よろしくお願いします。

あと庁舎建設、これからいろいろな検討に入るというよりは、骨格ができて、その骨格ができたものを市民のみなさんがお示しされたものを見てどういうふうにお感じになるかも含めて、いろいろな声を拾っていただきたいなと思います。庁舎は尾花沢市のまちの中心にございますが、各地区の距離というとかなり遠いと思います。銀山、鶴子、福原、毒沢のほう、さらなるいろんなところの山間地にまでやはり市民の安全安心がきちんと守られるような形の拠点として、新しい庁舎がなってくればいいかなと思っておりますので、ぜひしっかりとその点を踏まえお考えいただきたいなと思います。

あと身の丈にあったということで、実際想定、何年度ぐらいにどれくらいの人数の人口を想定しているのかお聞きしたいところなんですけれども、よろしくお願いします。

◎議長（鈴木敏正議員）

財政主幹。

◎財政主幹（加賀孝一君）

それではお答えします。庁舎の基本計画できたわけでありまして、その中で人口も想定してございます。人口につきましては、国立社会保障人口問題研究所から出されております推定の数値がございまして、平成32年、2020年になるわけでありまして、16,000人になるというふうな推計が出てございます。本市におきましても、この推計をベースにしまして庁舎の中に入る人員数、職員数等なるわけでありまして、それについて類似団体の職員数の調べがございまして、総務省のほうなんです、それに合わせまして職員数も推

計してございます。そうしますと、平成32年には職員数が158名というふうな数字がはじき出されます。それに若干特別職、それから今おります専門職の方もいらっしゃると思いますので、そういった方も含めて180名と推計をさせていただいたところでございます。

◎議長（鈴木敏正議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子議員）

平成32年、2020年をとということで16,000人。これは多分、希望的数字も入っているのかなという気もするところなんですけれども、16,000人の市民の命を守る基地であってほしいと思います。職員数が158名とお聞きしたんですけれども、この中には臨時職員などは入っていない職員ということでご理解してよろしいんでしょうね。その人数が常に待機している庁舎になりますので、ぜひ安全安心も含め機動性が取りやすいようにお願いしたいと思います。たぶん、平成32年ごろになりますとITの技術もどんどん進化しているのではないかと、私も思っているところです。今皆さんお持ちの携帯電話、スマートフォン、いろんな機器あると思うんですけれども、もの凄くコンパクトになりました。さらには、いろいろなクラウドを利用したソーシャルネット、先ほどの説明でありますとフェイスブックなどのソーシャルネットワークという言葉ができましたので、そのような無料で使えるような情報ツールも配布されておりますので、身の丈にあったなるべく費用をかけないような形でシステム、ネットワーク構成を考えていただきたいなと思っております。現在の庁舎のネットワーク、5時ごろになるとメールが使えないんだと職員からの悲鳴を聞いておりますので、たぶん10年以上前の古いネットワークの体制そのままになっているのではないかとおもわれますが、その点いかがでしょうか。

◎議長（鈴木敏正議員）

総務課長。

◎総務課長（笹原隆一君）

確かに今、ホームページがなかなか見にくいと、回線が遅いというふうなご指摘がございまして、今業者のほうに依頼しまして今調査中でございます。なるべく早く調査結果を、原因を究明いたしまして元の形に戻せればなというふうに思っているところでございます。

◎議長（鈴木敏正議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子議員）

はい、分かりました。ホームページリニューアルして、たぶんいろいろな内部で動く見えないところで動くソフトが増えてしまったために、ネットワークに負荷がかかっているのではないかと思います。それも含めてインフラの部分、現在の庁舎自体がこのような老朽化している状態ですと、なんともしょうがないのかなと思いますが、これからは無線でとれるような状況、その無線に対しても十分なセキュリティーがとれるような仕掛けもできておりますので、いろいろ研究なさって新庁舎の時にはもの凄く快適に、そして皆さんの情報を守れるような形にしていきたいなと思っております。現在のホームページの更新の速度は、たぶんですね個々の各課のみなさまのスキルアップがあれば、十分に可能ではないかと思っております。簡単に上げる工夫、あとは画像の作り方とか細かいことも習わなければいけないかもしれないんですけども、庁舎内の職員の皆さんのスキルがアップすれば十分に解消できるのではないかと思いますので、ぜひ職員教育のほうに時間を作っていただいて、ホームページは誰でもできるという考えでいる今の現在ではそういうふうなものもありますけれども、基礎的な知識のほうは日々勉強していただきたいなと思いますので、ぜひそのところを怠りなくやっていただきたいと思います。どうですか、3月にあったということなんですけれども、3月以降もこれから予定されていることはございますか。

◎議長（鈴木敏正 議員）

総務課長。

◎総務課長（笹原隆一 君）

それでは、お答え申し上げます。先ほど、3月にホームページの研修会というふうなことでやってございます。このホームページの研修会につきましては、ページの作成、それから更新、操作というふうな形でやったところでございます。これにつきましては、職員のほうに操作のマニュアル化をしまして手順を示しまして、そういう形で間違いのないような形でというふうなことでマニュアル化して研修を行ったところでございます。議員仰せのとおり、日々進歩するというふうなことでありますのでそういうふうな状況をみながら、研修はできるだけ多く取り入れていきたいというふうにご考えてございます。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

安心いたしました。その有事のときの情報発信も、

今日の北海道の特別な情報はないと思うんですけども、テレビで見聞きした情報なんですけれども自治体の情報をよく聞くようにという気象庁のアナウンスでありましたので、各地区の自治体から発せられる情報がたぶん一番命を守るための大事な情報になると思います。それを個々の皆さんにお伝えするにしても今の状況では、ここ2、3年の間では確実に届けるということは、なかなか難しいと思います。それを解消できるのも、やはりインターネットの普通の閲覧できるという状況を瞬時に市役所庁舎の中から発信するような体制をとっていただきたいと思いますが、そのような仕掛けはどうですか。危機管理体制の中で、情報を発信を直ぐに発信できるような体制というのはどちらの課で担当なさっているのでしょうか。安心するために聞きしたいと思います。

◎議長（鈴木敏正 議員）

総務課長。

◎総務課長（笹原隆一 君）

今、災害有事の場合というふうなことでありますけれども、国の総務省のほうから情報が発信されます。今Jアラート整備しておりますので、そちらのほうから瞬時にメールで発信するというようなシステムは取っております。しかし、メール等利用していない方もおりますので、そういう方にはそういう有事の場合については市の職員による情報収集、これは必要不可欠だというふうにご考えておりますので、やはりインターネットだけに頼るのではなく、一つ一つ情報を収集し何らかの形、広報でもそういった形でやっていかなければならないのではないかなというふうにご考えているところでございます。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

本当に人がきちんと情報の収集と発信をしていかなければいけないと、一番大事なことでございますので、ぜひその点お願いしたいと思います。

では、花笠まつりについて、もう少しだけお聞きしたいと思います。先ほどこれからも、早めに反省点を洗い出して来年に新たな発想でつなげたいということがありましたので、ぜひそのようにしていただきたいと思うんですけども、説明の中で27日と28日、行列部会とパレード部会、2つあると言っておられたんですが、これは一緒に会議をして一緒に考え方をこれから新たにという場はあるのでしょうか。商工観光課からお願いします。

◎議長（鈴木敏正 議員）

商工観光課長。

◎商工観光課長（加賀 剛 君）

今、四大祭りの実行委員会という中に、徳良湖祭り、おばなざわ花笠まつり、まるだしふれあい祭り、雪祭りという形でっておりますけれども、花笠まつりにつきましてはさらに部会ということで2つを分けてございます。しかしこの部会について、話し合いを別に行っているというわけではありませんので、花笠まつり全体としての会議を行いまして、その後部会のほうで検討したものについては、再度花笠まつりの全体の会議の中で話し合いをして行うという形で行っております。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原 未知子 議員）

分かりました。そのようにお願いします。さらにもうお願いなんですけれども、今回27日の祭り行列に全市から募集したため玉野地区からとか、さまざまな地区から参加なさっているんです。そのとき学校をお休みして出るということになってしまうということで、全市的な学校が27日休みではなく、尾花沢地区だけが依然として休校になっている状態なんですけれども、その点は今後どうなっていくのか、ぜひ教育長のほうからお聞きしたいんですけれども、どうなんでしょうか。

◎議長（鈴木敏正 議員）

教育長。

◎教育長（岩崎 雄策 君）

それではお答えします。現在、小学校においては尾花沢小学校、中学校においても尾花沢中学校が27、28日とお休みしております。他の小学校は午前授業、中学校については28日のみというふうな形での休校になっております。

今のお尋ねの祭りパレード等についての生徒の参加についてですが、踊り屋台、あるいは囃子屋台等に本町地区以外からも参加している児童生徒がいるわけで、その児童生徒については校長とも相談しながらですけれども、最終的には校長が責任者でありますので校長にお願いすることになるんですが、相談しながら公休扱いをお願いしたいということでお話をしているところであります。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原 未知子 議員）

ぜひ子どもたちに、27日のパレードに演奏したり、

屋台を引いたりする子どもたちだけでなく、地区のみんなで見てもらいたいと思っておりますので、ぜひその辺り文化の継承ということにも通じるといいますので、よろしく次年度の検討をお願いしたいと思います。

あと3,000人という踊り手、今年最高の数だった。さらには、阿武隈のほうから400人のみなさんがいらっしゃってということをお聞きしましたところ、大分10年以上も前の花笠パレードとは様変わりしてきたなという気持ちでおります。地元の踊り手よりも、発祥地で踊ってみたいという、そういう要望のほうが強くなってきているのかなと思っているところなんですけれども、今後の3,000人以上になった時には、このパレードのやり方では、なかなか後半のところの踊りまできちんと踊れるのかなと心配になったところです。第5集団のちょうど中間から、10団体以降だったと思うんですけれども議員のほうの踊り手のときに、やっと最後踊りを終えまして戻る途中で8時半になった記憶があります。ですので、踊りきれないグループもまだいたんじゃないかと思います。その点、どういうふうに改善なりますか。

◎議長（鈴木敏正 議員）

商工観光課長。

◎商工観光課長（加賀 剛 君）

今年度の花笠まつりのパレードにつきましては、先ほど市長のほうからもありましたように、開会式から雨が降られまして、特に開会式終了後の3時半ごろから4時ごろが雨足が一段と激しくなっておりました。ちょうどその3時からのスタートの先頭にたつグループが、幼稚園、保育園関係のグループが多かったものですから、なかなか伝統踊りをつなげるというよりも多少行進踊りのほうを多くして、早くパレードのほうから流したような形になりました。その関係で、途中早くなりまして団体によっては一部前後した団体もできてきた状況もありましたけれども、第3集団ごろからは通常の予定された時間でなったのかなと思っております。ただ、最後の団体の方が最後まで踊りきる姿というのが果たしてパレードとしてどうなのかなということもございます。最後の団体がずっといくということは、逆に言えばお客様からみれば祭りの最終時間のときには、ほとんど何も踊っていない時間で終了というのも考えられますので、最後の団体関係について、ある程度踊りの団体をローテーションしなければならないのかなと思いますけれども、やはり最高潮に盛り上がったところで、ある程度の団体の方が踊られた状態で終了するのも今のやり方でございますけれども、

それも一つの案と思っておりますので、そういった今議員からお話がありましたようなことについても、今後の報告会等でもいろいろ話がでると思いますので、ぜひ話としては出させていただきたいと思います。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

分かりました。尾花沢まつりでは、どこかで必ず雨が降るという覚悟でいつもおりますので、雨が降っても中止にしない尾花沢の花笠まつりだと私は信じております。先ほどの一番後列のみなさんが踊り切ってしまうと寂しくなるとおっしゃっていたんですけども、それこそ青森のねぶたのように、はねのような感じで、前日チャレンジ花笠で花笠踊りを習得した方々が次々と沿道から飛び入りで参加するような、そんな賑わいもあってもいいのかなと思っていますところです。今回、2人の方がどうしても祭りに参加したいということで、1人は私たち議員団の中にも入られて楽しくみんなと一緒に和気あいあいと踊ったときにですね、新たな楽しみというか、私もそうなんですけれども他の議員も同じ思いをしたと思うんですけども、一緒に踊りを教えながら、一緒に踊るという楽しさを感じたところですので、ぜひいろいろな模索をして伝統は伝統です。ですが、改善すべきところは大胆に変えてもいいのかなと思っていますところもございますので、ぜひいろんなご意見、ご協議なさってより良いまつりにしていただきたいと思います。以上、私の質問は終わります。ありがとうございます。

◎議長（鈴木敏正 議員）

以上で、塩原議員の質問を打ち切ります。

ここで昼食のため、午後1時まで休憩いたします。